

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 7月えんだより

7月聖句：「主よ、朝ごとに、わたしの声を聞いてください」

<詩編5編4節>

長雨の続く梅雨ですが、7月に入り虫の音が聞こえ始めますと、いよいよ夏の訪れを感じます。昨年の今頃は、コロナ感染症の数が毎日頭から離れなかった日々ですが、今年は今まで流行らなかった感染症に罹る子ども達も多くいます。こうした時から少しずつでも、より良い日々が来ることを願います。

さて、自分事で恐縮ですが、学生時代に重度の障害のある児童の支援に携わっていた際に、彼の母が私に「この子が朝起きたら、お母さん！おはよう！と普通に話す姿を思い浮かべる時があるんです。」と言われました。命がけで誕生した生命です。子どもの一生を背負う親の心の奥にある思いに触れて、当時は一言も返す言葉が見つからなかったことを覚えています。

朝が来て、新しい一日が始まります。朝日を浴びると今日も一日頑張ろうという気持ちになりますが、いつも前向きな日ばかりではありません。朝起きるのが嫌だ、起きて学校に行く、会社に行くのが辛い、しんどい、不安だ。そんな気持ちになってしまうこともあります。世界に目を向ければウクライナやロシアで被害に遭っている両国の人々は、恐らく朝が来る度に「平和な日が早く来ますように」と祈っていることと想像します。ましてや自然災害や災禍を目の当たりにして、私達は不透明で、先行きの不明確な時代に生きており、子ども達が夢や希望を抱くことが難しいのではないかとも思います。

「今日も一日何事もなく、無事に事故もなく過ごせますように」と祈ります、そして「今日も一日無事に終わることが出来ました」と感謝します。「朝に礼拝夕べに感謝」という言葉を聞いたことがあるかもしれませんが、大切な方の健康や無事を祈ることも含め、突き詰めますと、今此処に生命を与えられている自身の命に感謝することが大切であろうと私は思います。生かされている命を、どう活かすか、様々な人達や自然の恩恵の上に「生かされている」自分を認識することで、自分の素直な思いを、神様との対話（礼拝）を通して、新しい一日を生きる力を神様から与えられます。スピードや正確さを求められる時代にこそ、こうした目に見えないものに対する恩恵を心に感じながら過ごしていく日々を大切にしたいと思います。

年主題 「ともにつむぎだす」～希望の中で～

7月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	いいきもち	やってみる
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> * 夏の自然にふれ、遊びや生活を楽しむ * 水・砂・泥の感触に親しむ 	<ul style="list-style-type: none"> * 神様の創られた自然に触れ、親しむ * 土・砂・水に存分に触れて、心も体も解き放って遊ぶ * 健康に過ごすための生活習慣を身につける
讃美歌	ちから 幼児讃美歌Ⅱ15	かみさまがつくられた こども改112